

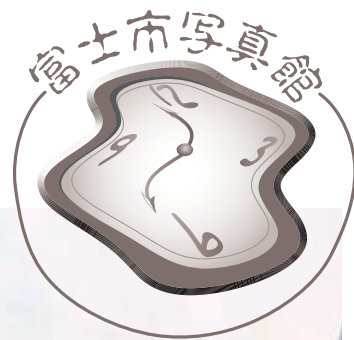


現在



= 54 =

蓼原大橋開通 昭和52年10月17日



横割と蓼原地区の南北を東海道本線をまたいで結ぶ道路「田子浦伝法線」の陸橋は、昭和47年に着工し、総工費7億3,600万円、5年の歳月をかけて完成しました。名称は、市民からの公募で「蓼原大橋」に決定しました。先頭を歩くのは、当時の渡辺彦太郎市長（故人）です。



開通式で渡り初めをした
かねよし 金指 伸司さん
ます 益子さん（本市場）
（上の写真前列右から4・5人目）

一家そろって記念すべき第一歩
蓼原大橋の渡り初めに私たちが選ばれたときは、とても驚きました。当時は、3世代の夫婦がそろっている家は珍しかったからだそうです。一度は母が「恥ずかしい」と断ったのですが、「おめでたいことだから」と親戚に勧められ、両親と息子夫婦と一緒に出ることにしました。式の当日、大勢の人が見つめる中を、緊張しながら一歩一歩踏みしめて歩きました。記念すべき場に出られ、「これも健康のおかげ、幸運なことだ」と感謝でいっぱいでした。大役を終え、ほっとして家に帰ると、親戚が集まってお祝いをしてくれて、うれしかったですよ。また、この年の春には初孫も生まれており、私たちにとって忘れられない年となりました。橋ができる前は、少し西側の蓼原踏切を渡っていました。そこは一度遮断機がおりると「あかずの踏切」と呼ばれ、長く渋滞して不便でした。橋のおかげで、南北の交流がスムーズになって、利用する皆さんも喜んでいましたよ。今や富士市の大動脈。通るたび、あの日6人で歩いたことを懐かしく思い出します。

こちら編集室

運動が苦手な私は、「スポーツ」と聞くだけで、やや拒否反応が出ます。そんな私が以前、取材でドッチビーの練習会場に行ったときのこと。「私もやってみたい！」思わずカメラを置き、ディスクを手にしていました。だって、皆さん本当に楽しそうだったから。世代や敵味方も関係なく笑い合って、参加するだけで元気が出そうでした。今回ご紹介したニューススポーツはどれも気軽に、楽しみながら健康づくりができます。「仲間に会えるのが楽しみ」と話していた、グラウンドゴルフのおじちゃん。いい笑顔でした。(り)

人口	244,279人	(前月比+115)
男	121,132人	(+46)
女	123,147人	(+69)
世帯	89,756世帯	(+98) 8月1日現在
編集・発行 富士市総務部広報広聴課		
〒417-8601 静岡県富士市永田町1-100		
☎0545-51-0123(代) ☒0545-51-1456		

平成20年9月5日号（毎月5日・20日発行）